

消えた鉄道を追え！

—未完成に終わった3つの路線を探して—

鳥谷部 美香^{1,2}・福井 廉也^{1,2}・岩井 郡^{1,3}・楠本 学^{1,3}・佐藤 革馬^{1,4}

¹ 北海道枝幸高等学校総合文化研究部, ² 62期生, ³ 64期生, ⁴ 顧問教諭

はじめに

私達が住む枝幸町にはかつて鉄道が運行し、北見枝幸駅という駅があった。北見枝幸駅が廃駅になったあとにはバスターミナルのほか、公園として整備されている。なぜ北見枝幸駅が廃駅となったのかを調査していくうちに、北見枝幸駅を起点とした廃線が他にも存在していることに疑問をもち、研究方針とした。

1. 枝幸町近辺の未完成に終わった路線

- ①興浜北線(昭和60年7月1日廃止)
【浜頓別～北見枝幸】
【未成区間:北見枝幸～雄武】
- ②美幸線(昭和60年9月17日廃止)
【美深～仁宇布】
【未成区間:仁宇布～北見枝幸】
- ③歌登簡易軌道(昭和46年5月29日廃止)
【小頓別～歌登～志美宇丹】

これらの鉄道は北見枝幸駅で合流するようにして繋がっていた。また、枝幸町は国道238号線が南北に縦貫し、オホーツク海に沿って鉄道が運行していた。

2. 興浜北線について

- 【総延長】 浜頓別～北見枝幸間(30.4km)
興部～雄武間(19.9km)
- 【未成線】 北見枝幸～雄武間
- 【着工日】 昭和8年
- 【廃止日】 昭和60年7月1日

実はこの興浜北線だが、もうひとつ興浜南線という鉄道があり、2つ合わせて興浜線と呼ばれる

興部～浜頓別間のオホーツク海沿岸線を縦貫する鉄道となる予定だった。そのため、工事は南北の両端から建設が進められ、興浜北線が北見枝幸まで、興浜南線が雄武まで伸びていった。しかし、両者を繋ぐべき50kmあまりの中央の未完成区間は戦中戦後の混乱で建設が後回しになったため、ひとつの興浜線としてではなく、興浜北線と興浜南線のふたつの路線になってしまった。だが、戦時中レールなどが不足したため、重要度が低い鉄道を営業休止してレール等を転用したのに伴い、昭和19年11月1日に両線ともに営業休止、終戦直後の昭和20年12月5日に復活した。ずいぶん早い復活だったが、輸送前に終戦を迎え、営業休止して線路を撤去したものの、転用されずに残っていたためだと考えられる。昭和60年に収支に見合う見込みが全くないことから断念され、南北両線ともに廃止になった。

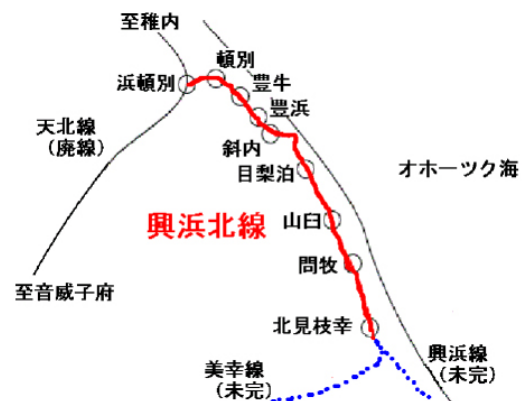


図1. 興浜北線路線図

^{1,2,3,4} 〒098-5822 北海道枝幸郡枝幸町北幸町529-2

| | |
|------------------|------------------------|
| 昭和 8 年 | 着工 |
| 昭和 10 年 | 興部～雄武間が開業 (興浜南線) |
| 昭和 11 年 | 浜頓別～北見枝幸間が開業 (興浜北線) |
| 昭和 19 年 11 月 1 日 | 戦時中のレール不足 営業停止 |
| 昭和 20 年 12 月 5 日 | 終戦直後に復活 |
| 昭和 60 年 7 月 1 日 | 南北両線ともに廃止 |

表 1. 興浜北線の歴史

3. 美幸線について

- 【総延長】 美深～仁宇布間 (21.2km)
- 【未成線】 仁宇布～北見枝幸間 (57.5km)
- 【着工日】 昭和 32 年 4 月
- 【廃止日】 昭和 60 年 9 月 17 日

美幸線建設構想は戦前からあった。計画では美深より仁宇布を経てオホーツク海沿岸枝幸町の興浜北線北見枝幸駅に至る予定だったが、仁宇布から枝幸方向にかけては一部工事が行われるのみであった。大正 11 年改正された鉄道敷設で「北見国興部ヨリ幌別、枝幸ヲ経テ浜頓別ニ至ル鉄道及幌別ヨリ分岐シテ小頓別ニ至ル鉄道」が登録され、昭和 28 年 9 月、地元では美深と北見枝幸を鉄道で結ぶ悲願が早くからあり、美幸線敷設促進期成会を設立した。新規昇格線にも関わらず 8 月から調査と測量が行われ、3 年後の昭和 31 年 2 月 24 日には調査線になる。財政難もあって、先送りになったが、翌年の昭和 32 年 4 月、工事線へ昇格する。美深～仁宇布間の着工が決定し、昭和 39 年 10 月 5 日開業、昭和 60 年 9 月 17 日廃止になる。ちなみに興浜北線・南線も同じ年だ。

| | |
|------------------|-----------------------|
| 大正 11 年 | 鉄道敷設に登録 |
| 昭和 28 年 8 月 1 日 | 予定線：美幸線敷設 促進期成会を設立 |
| 昭和 31 年 2 月 24 日 | 調査線：財政難 先送り |
| 昭和 32 年 4 月 3 日 | 工事線：美深～仁宇布間の 着工が決定 |
| 昭和 39 年 10 月 5 日 | 開業 |
| 昭和 60 年 9 月 17 日 | 廃止 |

表 2. 美幸線の歴史

輸送量はきわめて少なく、国鉄全路線中最悪レベルの赤字線だったため、美幸線は日本一の赤字路線で有名であった。昭和 49 年の営業係数は 3,859、すなわち 100 円の収入を得るのに 3,859 円の費用を要するような状態だった。

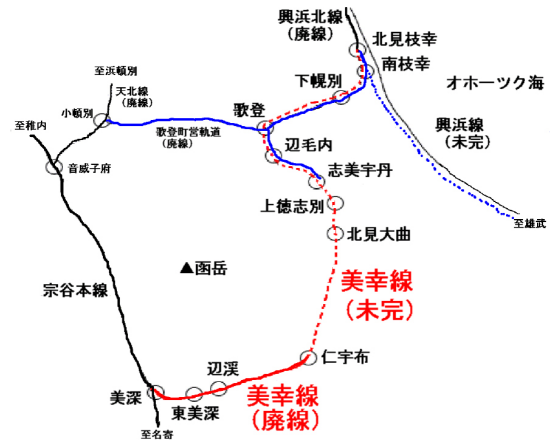


図 2. 美幸線路線図

4. 廃線となった後の美幸線

① 「トロッコ王国美深」

廃線となった美幸線は仁宇布付近の一部と敷地を利用し「トロッコ王国美深」という観光施設になり、エンジン付きトロッコの運転体験が可能。本物のレールの上を白樺や木々のトンネルをくぐって渓谷の合間や野原を風を切って走り、カタコト揺られるのは気分が良いそうだ。自動車運転免許証さえ持っていれば運転することが可能で、持っていなくてもスタッフが運転してくれる。

② 「天の川トンネル」

他にも廃線となった美幸線は南宗谷と旭川の道央圏を結ぶ天の川トンネルとして活用されている。廃止となった幻の鉄道、美幸線の跡地に彦星と織姫を繋ぐ神秘的な天の川のトンネルとして蘇った。両側の彫刻のデザインが彦星と織姫になっている。

5. 歌登簡易軌道について

- 【総延長】 本線→小頓別～歌登 (32.22km)
支線→上幌別六線～志美宇丹まで
12.6km延長
上幌別 12 線～本幌別 27 線まで延長
- 【起工日】 昭和 3 年 4 月
- 【廃止日】 昭和 46 年 5 月 29 日

歌登町営軌道は殖民軌道として昭和4年に開通した。殖民軌道は、開拓地での交通手段の確保などを目的として、道北・道東を中心とした北海道内に数多く作られていたが、一般的な鉄道・軌道とは異なる簡易的なものだった。当初は小幌別から上幌別六線・枝幸の枝幸線のみだったが、その後も上幌別線、幌別線といった支線が作られていった。また、動力は馬鉄であった。馬鉄とはレールの上を馬がトロッコを引いて走るようなものである。昭和7年7月10日、本線の動力がガソリンカーとなったが、支線は馬鉄のまま昭和40年まで運行を続けた。開拓地の整備や道路網の拡充などが進むにつれてその必要性も失われていき、昭和46年5月29日に廃線となった。



図3. 歌登簡易軌道路線図

| | |
|------------|--|
| 昭和3年4月 | 起工された殖民軌道 |
| 昭和4年12月 | 小幌別～上幌別六線間 19Kmが開通、機動車は馬鉄 |
| 昭和5年9月4日 | 上幌別～枝幸間 16.15Km が開通、計 35Kmの小幌別～枝幸間の殖民軌道完成 |
| 昭和6年 | 上幌別六線より分岐 志美宇丹まで 12.6Km 延長 |
| 昭和7年7月10日 | 動力が導入、小幌別～枝幸 間の軌道はガソリンカー |
| 昭和10年 | 上幌別 12 線より分岐 本幌別 27 線まで延長 |
| 昭和46年5月29日 | 廃線 |

表3. 歌登簡易軌道の歴史

考察

昭和40年代以前から北海道に投資すれば儲かるという風潮があったため、鉄道が積極的に建設され、人口の割に濃密度の鉄道網になった。しかし、オホーツク海に沿った移動の需要自体が少なく、開業しても経営悪化による利用者や貨物の減少によって毎年数億円単位の赤字が発生することが判明し、計画が断念されたのではないかと思われる。また大戦が激化し財政難もあって、建設が中止になってしまったり、鉄道を運行することができず、混乱が収まる頃には鉄道自体が不要になってしまったことも考えられる。もし全通していれば、最北端の町、枝幸の観光地としての可能性を引き出せたかもしれない。

課題

今回は主に文献による読み取りの調査が主だったため、研究は困難を極めたので、実際に現地へ赴いての調査もしていきたい。ただ、文献に記載されている地図が非常に少なく古いため半世紀を過ぎた今では難しく、また、レールが撤去されて草が生い茂り、当時を思わせるものがほとんど残っていない。今後は現地の人達に聞き込みをしながらの調査になると思われる。今回の調査によって下調べは概ねできたので、地元の資料館施設「オホーツクミュージアムえさし」との連携を図りつつ研究を進めていきたい。

おわりに

本研究は、枝幸高校総合文化研究部の郷土研究班が今年度新たに調査を開始したものである。研究はまだ緒に就いたばかりであるが、高校生が生まれる前に廃線になった鉄道を研究することで、枝幸町の歴史を振り返る良い機会になった。本稿の路線図は廃線鉄道寮 (<http://homepage3.nifty.com/haisentetsudouryou/>) を元に作成したものである。

参考文献

- 今尾恵介. 2010. 新・鉄道廃線跡を歩く 1. 北海道・北東北編. JTB パブリッシング
榎本守恵編. 1972. 枝幸町史・下巻. 枝幸町

- 鉄道で旅する北海道編集部編・上田哲郎写真.
2012. 北海道の大地から消えた鉄道風景. エ
ムジーコーポレーション
- 富沢英編. 1980. 歌登町史. 歌登町
- 堀淳一. 1995. 北海道産業遺跡の旅. 北海道新
聞社
- 森口雅之. 2002. 鉄道未成線を歩く・国鉄線.
JTB キャンプック
- 廃線鉄道寮. [http://homepage3.nifty.com/
haisentetsudouryou/](http://homepage3.nifty.com/haisentetsudouryou/)